利　南　幼　稚　園

所 在 地　　〒３７８－００１４　　沼田市栄町１４１番地
電話番号　　０２７８－２３－１０７１　ＦＡＸ　２３－１１８６
園 長 名　　森下　和樹

Ⅰ　園の経営

１　園の教育目標

『人間性豊かで心身共にたくましい子』

・明るく元気な子　　・友達と仲良く遊ぶ子　　・豊かに表現する子

２　経営方針　　【スローガン】　いきいき　元気な　となみっ子

(1)　全職員で子どもの姿を共有し､教員の持ち味を活かした『チーム保育』の充実

(2)　幼児が様々な環境や友達とかかわり、学びのある主体的活動の重視

(3)　心の育成（感じ、考え、表現する力の育成）をねらいとした計画的活動

(4)　家庭との連携による基本的生活習慣の確立

(5)　教師同士が協力し、互いに指導力を高め合い教師力を高める

３　本年度の重点施策

(1)　一人一人の幼児にとって望ましい保育の充実

①幼稚園の様々な活動に幼児が主体的にかかわり、試行錯誤し、達成感を味わえるような主体的活動を意図的、計画的に取り入れ、協同性や思いやりの心、自己肯定感を育む。

②幼児一人一人の特性に応じた保育をすすめ、週日案や保育記録を活用とＰＤＣＡサイクルをもとに指導計画及び保育実践や環境構成の改善・充実を図る。**【振り返り】**

③絵本に親しみ、いろいろな思いや考えを感じ、自分なりのことばで表現する楽しさを味わえるような読み聞かせ活動を計画的にすすめる。**【家族で本を読みましょう】**

④園内研修を中心とした実践的研修を通して、教員一人一人の保育力の向上を図り、質の高い保育実践をすすめる。

(2)　安全、安心、健康な生活が送れる幼稚園づくり　【セイフティ沼田】

①「げんきっこチェック表」を活用した『げんきっこウィーク』や『げんきっこデイ』を計画的に設定し、家庭と連携を図りながら基本的生活習慣の確立を図る。

②食物の栽培、収穫を通して食への興味や関心を高めながら健康な体作りを推進するとともに、生活管理指導表に基づいたアレルギー疾患への対応を的確に行う。

③定期的な安全点検や業者による巡回点検、遊具点検を確実に行い、その結果を全職員で共有するとともに、改善箇所等早期対応に努める。

④様々な想定による実践的な各種避難訓練を計画的に実施し、危機回避能力を身に付けさせるとともに、安全計画及び危機管理マニュアルの見直し、改善を図る。

(3)　家庭、地域、学校と連携の充実

①各たより、掲示板連絡、写真日報等で幼稚園の様子や幼児の遊びを通した学びの姿を具体的に知らせることで、園の方針への理解を深めながら信頼関係を築く。

②幼・小の『つながり』を意識した園児、児童との交流活動や幼・小の教員による情報交換や交流を通して小学校への円滑な接続ができるようにする。　**【幼小中連携】**

③地域の人や自然、文化等に触れる機会や行事を計画的に実施し、幼児が地域に親しみをもち、豊かで温かな心と郷土愛をはぐくむ。　**【「沼田大好き」ふるさと学習の推進】**

Ⅱ　園内研修の推進

1　研修主題及び設定の理由

～研　修　主　題　～

主題　　幼児期の基本的生活習慣の育成に向けた取り組み

副主題　～げんきっこウィーク等の取組と家庭との連携を通して～

子どもの実態との関わり

・年少児は、入園前の家庭環境・意識が子どもの姿に大きく影響している。また、兄弟の姿から刺激を受けたり、習得したりして自分のことは自分でできる幼児が多い。
・家事に追われついTVやYouTube等に頼ってしまうという保護者の声も聞かれた。親の意識の違いが幼児の姿にも大きく影響している。
・身体の発達が未熟な面や、経験不足からうがいやボタンのかけ外しなど上手くできない幼児も見られる。
・週明けや休みが続いた翌日には就寝時間が乱れ、登園時間が遅れたり、食欲がなかったりする幼児の姿も見られる。
・生活習慣は自立しつつあるが、身支度が雑で促されないとできない幼児もいる。

指導の在り方との関わり

・基本的生活習慣に関する絵本や紙芝居などの視覚教材を活用しながら、生活習慣の大切さや身に付け方を分かりやすく伝えていく必要がある。
・昨年度のげんきっこデイ・ウィーク等の取組によって、規則正しい生活を意識し取り組む姿も見られたが、その期間が終わるともとの生活習慣に戻ってしまう家庭もあった。
・強化週間以外の時も、手遊びや歌を交え正しい手洗い方法を伝えていく等、園で毎日幼児が自発的に行動し、意識できるような援助や環境構成を工夫していく必要がある。

2　研修内容・方法

幼児期の基本的生活習慣の育成に向けて、今年度は特に家庭との連携の強化を図る。また、昨年度からのげんきっこウィーク等の取組を継続するとともに、基本的生活習慣が確立するための教師の援助の有効性について保育実践を通して明らかにしていく。

(1) 具体化した目指す幼児像

・本園の教育目標「人間性豊かで心身共にたくましい子」のうち、「明るく元気な子」に重点を置く
　【３歳児】生活の流れが分かり、自分でできることは自分でやってみようとする。
　【４歳児】基本的生活習慣が確立し、身の回りのことを自らすすんでできるようになる。
　【５歳児】自分の身体について関心をもち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもった生活を送る。

(2) 共通実践する手立て

・各学年の基本的生活習慣に関する指導計画の見直し・改善を図る。
・昨年度の「げんきっこデイ・ウィーク」（生活習慣確立強化週間）を継続して実施。
　げんきっこウィークで用いたチェック表の項目や実施回数の見直し・改善を図り、より有効に活用できるようにする。
・（幼児に向けた支援）基本的生活習慣に関する絵本・紙芝居や絵表示、手遊び・歌等を活用し、分かりやすく伝えながら、幼児が自発的に取り組んだり、生活習慣力が高まるような環境構成・援助を工夫したりする。
　（家庭に向けた支援）お便りや送迎時の保護者との対話等を通して、園での基本的生活習慣に関した幼児の姿や取組を積極的に発信しながら、家庭への意識も高められるようにする。

3　研修計画・経過報告　＜次ページ＞

４．これまでの研修の成果と今後の取組

○ 成果

・子供たちの生活の基礎となる生活習慣に視点をあてて研修に取り組んできたことで、うがいや手洗いも１つ１つ丁寧に、諦めないで最後まで頑張る姿が見られるようになってきている。年中組や年長組の園児が良いお手本を見せてくれることで、年少児もそのような姿を真似してやってみようとする気持ちになっている。

・絵本や紙芝居、付録のポスターなどの視覚教材を用いて、食事や睡眠の意味や自分の身体について知り、幼児自身が必要感や重要性が感じることができた。また、掲示する場所や掲示期間を幼児の実態に合わせたことで目につきやすく興味をもって取り組もうとする姿がある。

○ 課題

・子供たちには変化が見られてきているが、家庭によっての意識の差があるのが課題である。

・手洗い、うがいが習慣化されていることに安心し、丁寧にできているかのチェックが不足していた。

○ 課題解決に向けての今後の取組

・今年度は家庭向けに食生活に関する講話を実施したが、今後も保護者自身で気が付き、親子で一緒に取り組める内容を引き続き伝え、意識を高めていく必要がある。

・子供の変わってきている姿を、根気よく伝えていきながら、子供が自主的にできる力を育て、そこから親も変わっていけるようにしていけるといい。

３．研修計画・経過報告

月日	研修計画［内容］	経過報告［○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）］
4.12	・研修主題の検討 ・研修内容検討 ・園内研修計画確認	○前年度の反省及び今年度の研修内容と進め方について ○幼児の実態の把握と課題検討、テーマの決定 ○研修主題についての基本的な考え方と共通理解 ○研修の内容、方向性について共通理解・検討 ・家庭向けに基本的生活習慣に関するアンケートを実施。 評価の低かった「食事」「睡眠」を重点的に取り組んでいく。
	・構想図作成	○研究構想及び目指す幼児像図式化 ・アンケート結果、構想図、研修の方向性をまとめたものをお便りにして配布し、家庭と園で共有できるようにした。
	・文献研究	○基本的生活習慣に関する参考文献等から、基本的生活習慣の育成に向けた環境構成や援助・家庭との連携方法を探る。
5.17	・指導計画検討（１期）	○年間指導計画における心と体の健康に関する各学年の内容について共通理解、改善・検討。 ・１期に取り組んできた活動、振り返りを表に記し、全職員で共有する。他学年のしていることに刺激を受け、真似して実践する様子もある。
6.28 7.20 ～	・教育課程協議会 ・指導計画検討（２期） ・保育実践研究 ・実践事例検討	○幼稚園教育課程協議会への参加 ○年間指導計画における心と体の健康に関する各学年の内容について共通理解、改善・検討。 ○実践事例の分析と今後の方向性 (環境や援助の有効性や課題、幼児の変容) ・年長：基本的生活習慣「食事」 げんきっこランチの日に、食材に関するポスターを掲示し、献立の食材をみんなで確認したり、体の仕組みやこの食べ物の栄養について伝えたりすることで、色々な食材に関心をもって食べられるようになってきている。 ・年中：基本的生活習慣「清潔」

8.25 9.13	・指導計画検討（３期）	子供が集中できる歯磨きコーナーを保育室の一角に作ったり、歯磨きのポイントを押さえた表示のポスターを掲示したりして、磨き方を伝えることで、ポスターを見ながら歯の裏まで磨こうとする子や集中して歯を磨こうとする姿が見られるようになる。
10.18	・げんきっこ表の改善	・年少：基本的生活習慣「睡眠」 げんきっこデイで掲げていることをイラストで示し分かりやすく伝え、降園時に振り返る。早く寝ることの大切さを、「うさぎとかめ」の童話をアレンジし、ペープサートで伝えることで、早寝早起きの大切さを年少児なりに感じるようになってきた。 ○げんきっこウィークの実施、実施後各クラスの結果を共有し、課題だった項目を実践の中で改善していく。（各学期） ・げんきっこウィークで活用しているチェック表の改善。 「朝うんち」→体質によって朝、便が出にくい幼児もいる為、１週間の中で便が出た日にシールを貼る形式にする。 「起床時間」→家庭によって差がある。国が推奨する幼児期の起床時間を、隣に載せることで、その時間に意識して起床時間を各家庭で決める様子がある。
11.24	・指導計画検討（４期） ・指導主事訪問 ・教育課程協議会	○年間指導計画における心と体の健康に関する各学年の内容について共通理解、改善・検討 ○幼稚園教育課程協議会への参加
12.20	・指導計画検討（５期） ・保育実践研究 ・実践事例検討	○年間指導計画における心と体の健康に関する各学年の内容について共通理解、検討 ・期で取り組んだことを、振り返りメモにしてまとめていくことで、幼児の変容、教師の取組が一目で分かるようになる。 ○実践事例の分析と今後の方向性 ・年長：基本的生活習慣「朝の体操に視点をあてて」 生活リズムの乱れや運動不足を改善するために、毎朝体操を実施する。それまでは室内遊びを好み、外遊びに出るまでに時間の掛かっていた幼児も、戸外遊びを活発に楽しむ幼児が増えた。 ・年中：基本的生活習慣「食事のマナー」 スプーン、フォーク、箸を使い分け、こぼさないで食事できるために、箸の持ち方ポスター等、目にとまりやすい場所に掲示したり、一緒に食べながらマナーを知らせたりすることで自ら意識できるようになってきた。 ・年少：基本的生活習慣「やってみたい！と思える掲示物の工夫」 生活習慣を自ら意識できるように、幼児に伝わりやすい絵本や友達がうがいを頑張っている写真など掲示することで、教師が伝える半分の時間で幼児に伝わり、自ら進んでできるようになった。
1.22 2. 3.6	・研修のまとめ ・来年度の方向性の検討	○成果と課題、幼児の変容について ○反省と次年度の研修の方向性、課題検討

＜　職　員　一　覧　＞

職　　名	氏　　名	職　　名	氏　　名
園　　長	森 下　和 樹	教　　諭	深 代 美 智 子
教　　諭	戸 部　　葵	用 務 員	大 竹　秀 男
教　　諭	松 井　逸 希		

薄　根　幼　稚　園

所在地　　〒３７８－００６４　　沼田市善桂寺町７８番地
電話番号　０２７８－２３－０６５１　　FAX 番号　０２７８－２３－０５８８
園長名　　小室　昌顕

Ⅰ　幼稚園の経営

１　幼稚園の教育目標

人間性豊かで心身ともにたくましい幼児

○明るく元気な子（重点目標）○仲良く遊べる子　○進んで取り組む子　○豊かに表現する子

２　経営方針

○「幼児の笑顔のために…」園、家庭、地域が協力して子どもを育てる幼稚園

⑴ 友達と関わる中で自他の良さを認めながら、主体的に活動し**豊かに育つ幼稚園**
⑵ 様々な体験を通して幼児が伸び伸びと自己発揮でき、**自己肯定感が持てる幼稚園**
⑶ 教師が明るく元気で、学び合い・高め合い・協力し合う、**活気ある温かい幼稚園**
⑷ 家庭と連携協力し、基本的な生活習慣と社会性の育成、子育て支援に努める、**共に歩む幼稚園**
⑸ 地域社会や小中学校と協力して、育ちの連続性を見通した**連携を進める幼稚園**
⑹ 危機管理と安全指導に努め、**安全で安心して過ごせる幼稚園**

３　本年度の重点施策

(1) 幼児期の豊かな学びを支え、確かな学びが得られる保育の充実

①異年齢交流等、多様なかかわりを通して育ち合う中で、かかわる力を高める援助の工夫をする。
②幼児の興味や関心に即した主体的な活動の中で、自己発揮しながら必要な体験を積み重ね、自己肯定感を感じながら確かな学びができる環境作りをする。
③反省・評価、個人記録の蓄積を通し、必要な体験が得られる環境の構成や援助の工夫をする。
④職員間の連携や保育カンファレンス､研修による多面的な幼児理解を指導力の向上につなげる。
⑤実践研修を積み重ね、分析、考察を通して保育の充実と指導力の向上を図る。

(2) 健康な心と体を育てる生活習慣の育成

①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進し、家庭と連携して健康な体づくりの基となる望ましい基本的生活習慣を確立する。
②食育を推進し､食べ物の興味や関心を高めながら栽培活動や食べる経験を計画的に取り入れる。
③運動の要素を取り入れた遊びを工夫して、楽しく体を動かしながら運動能力の向上を図る。

(3) 安心・安全の確保

①安全点検を中心に、園内外の環境を整えて安全確保に努め、幼児が安全に過ごせる幼稚園作りをする。
②危機管理マニュアルやアレルギー管理指導表など、安全確保に関わる事項を周知徹底し教職員の意識と実践力を高める。
③交通安全指導や災害時の避難訓練を通して､安全意識の高揚と危機回避能力を身につけさせる。

(4) 家庭・地域・関係機関と連携した教育活動の推進

①保護者に幼児の育ちや学びを具体的に伝え、園の理解を深め、成長を喜び合える信頼関係作りをする。
②配慮が必要な幼児に対して、関係機関と連携しながらより良い支援ができるようにする。
③新型コロナウィルス感染症に配慮した行事の持ち方について、保護者と共に考え効果的に実施する。
④絵本が情操教育に大切なことを知らせ、親子読書の意識を高める。
⑤地域の人や自然事象との触れ合いから、郷土愛や豊かな感性を育んでいく。
⑥小中学校と、互恵性のある交流や、育ちの連続性を踏まえた連携を図り幼児の成長を支える。
⑦幼小中ＰＴＡ連携スローガン「子どもは地域の宝物、ほめて叱って励まして、みんなで育てる薄根っ子」を基に、地域の教育力を活用する。

Ⅱ園内研修の推進

1　研修主題及び設定の理由

～研 修 主 題～
主題　　異年齢がつながり育ち合う遊びや生活の工夫
副主題　　～人と関わる力の育ちに視点をあてて～

幼児の実態との関わり

・昨年よりさらに園児の数が減り、クラス内のみの活動では、他者との関わりが希薄で互いの学び合いが難しくなってきている。クラス内で遊びの環境を充実させても、遊びの広がりには限界がある。年長・年中児は昨年度の異年齢交流の経験から学年を越えて行き来が多く関わりが増えてきている。
・年長児は、年中児や年少児にも関心が向き、思いやりをもって接しているが、状況により伝え方や接し方に戸惑っている場面も見られる。
・年中児は、ひとつ大きくなったこともあり、喜びとともに行動や発する言葉からも張り切っている様子が見られるが、年少児に対してはまだどう接すればよいか戸惑う場面も見られ、年長児に頼ったり様子を窺ったりしている。
・年少児は、自分中心で行動してはいるが、徐々に色々な事に関心が向き、年上の子のしていることにも興味をもって関わろうとしている。

指導の在り方との関わり

・昨年度の研修では、行事に視点を当てて異年齢交流をすすめてきたが、人と関わる力を育てるには、普段の遊びや生活の中で友達の姿に目が向くような教師の意図的な声かけや工夫が効果的であった。少人数なので、幼児同士で目的やイメージが共有していけるよう教師が援助できる場面でもあえて友達同士をつなぐ援助ができるよう意識する必要がある。
クラス内活動の充実はもとより、異年齢でのつながりを意識し工夫することで、幼児同士のタテ・ヨコの豊かな関わりが生まれ、人と関わる力の向上が図れるものと考える。
・昨年度の研修から園行事という一つの目的に向かって友達と一緒に活動をすすめていく楽しさは感じられていたが、普段の遊びの中では友達との関わり合いが希薄であった。他学年の実態や課題、成長の姿を共通理解し、普段の生活や遊びの中で子ども同士がつながるような環境構成や援助の工夫に視点をあてて研修をすすめていきたい。

2　研修内容・方法

(1) 具体化した目指す幼児像

○人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて共感や思いやりの心をもつ幼児
○友達と関わる中で、互いの良さを認め合ったり、共通の目的に向けて考えたり、協力したりして友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえる幼児

(2) 具体化した目指す幼児像を達成するための共通実践する手立て

・昨年度の経験を活かし、日々の遊び・生活での課題などを検討し、異年齢での遊びや生活がつながるよう教師間でねらいや手立てを早目に共通理解していく。
・毎日のカンファレンスを通して、幼児一人一人の姿を多面的に捉え、共通理解を深めていく。また日々の幼児一人一人の状況や様子をみて、臨機応変に見直しをしながら計画をしていく。
・それぞれの学年でのねらいや体験が得られるよう、クラス内のつながりも大事にしつつ、異年齢の関わりの中での友達とのやりとりを経験できるような遊びや生活環境を意図的・計画的に取り入れていく。
・制作活動や歌を歌う場面、遊びの場面で、幼児の拠点となる場所や居場所をクラスだけにとどまらず、広がるようにするため、みんなで活動を楽しめるよう制作のコーナーを作ったり歌を一緒に歌ったりするなど異年齢の幼児が自然に繋がれるような場を多く設定していく。
・生活面での課題が出てきた際に、幼児同士をつなぐチャンスととらえ、幼児同士で考えたり、工夫したりできるよう教師が意図的に環境を工夫していく。
・利南幼稚園の園児と交流し、同年齢の色々な友達と関わったり、薄根小中学校や地域の方々と関わったりする中で、様々な人とのつながりを意識できるようにする。

3　研修計画・経過報告

4　これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

・行事だけの関わりや単発的な関わりにならないように、普段の生活や遊びの中で異年齢の友達とやりとりや関わりをもてるよう保育のあり方を工夫することで、自分本位の気持ちで行動するのではなく、自己を調整することも必要であることに気付いて行動する力や思いやりの気持ちを育てることができた。

・人と関わる力に個人差はみられるが、少人数であることを生かし、個々に応じて、必要な言葉を伝えたり、自分の力で考え行動できるような支援を工夫するなどの手立てを考えたりすることができた。

・相談の場面では、繰り返し友達同士の思いをつなげる工夫をしてきたことで、いろいろな意見がすぐに出てくるようになったり、あまり関心が向かなかった幼児も友達の言葉に気付き、相手の言葉に耳を傾けようとするようになったりするなど、人と関わる力が身についてきたと実感できた。

○課題

・それぞれの学年の幼児の育ちの実態を把握し職員で共有した上で、ねらいと手立てを明確にした環境構成とどのような働きかけをするかを、カンファレンスでしっかりと確認し合い、共通理解することでさらに多くの関われる場面が想定でき、異年齢保育の充実が図れたと思われる。

○今後の取り組み

・来年度はさらに園児数が減ることを考慮し、幼児同士を繋ぐ環境構成の工夫については、職員間で意見交換をしながら進めていきたい。また、幼児同士を繋ぐ環境構成の中で発生した諸課題に対して、幼児たち自らに考えさせ課題解決を図っていくことも重要であると考える。

・今年度から試みた利南幼稚園との交流をさらに充実させ、行事等の合同開催も計画して人と関わる力が育つ機会としたい。

3　研修計画・報告

月	研修計画［内容］	経過報告［○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）］
4	研修主題、内容の検討	○幼児の実態や自園の課題から、研修の方向性、内容について ・教師間の情報交換や話し合い、連携を密にし、普段の生活や遊びがつながるよう異年齢保育の場を設定し、事前の話し合いをもとに計画的にすすめていく。 ・昨年度の研修から園行事という一つの目的に向かって友達と一緒に活動をすすめていく楽しさは感じられていたが、普段の遊びの中では友達との関わり合いが希薄で単に一緒に活動するだけでは人とかかわる力の育ちにはつながらないことが明らかだった。他学年の実態や課題、成長の姿を共通理解し、普段の生活や遊びの中で子ども同士がつながるような環境構成や援助の工夫に視点をあてて研修をすすめていきたい。
5	研修計画検討	○異年齢交流のもちかたの検討 ・幼児の拠点となる場所や居場所を学年ごとに作るのではなく、みんなで活動を楽しめるような制作のコーナーを作ったり歌を一緒に歌ったりするなど異年齢の幼児が自然に繋がれるような環境を意図的に設定し、各学年のねらいを達成できるようにしていく。 ・生活面での課題や人間関係でのトラブルが出てきた際に、幼児同士をつなぐチャンスととらえ、幼児同士で考えたり、工夫したりできるよう教師が意図的に環境を工夫していく。
6	実践事例研修	○異年齢交流における幼児同士をつなぐための工夫 ・幼児同士がつながるよう季節の歌や行事に関する歌を全学年同じ場所で一緒に歌ってきた。特に年少児に関して、年齢に合わせた段階的な配慮が必要だった。ただ同じ歌を歌うのではなく、楽しめることを前提に歌の内容や歌詞の長さによって一緒に歌ったり、年長・年中児の歌を聞くことで参加したりできるように臨機応変に配慮することで、今後の歌を歌う楽しさや一緒に活動することの楽しさにつながるよう、工夫していきたい。 ・制作活動を同じ部屋で行うことで、学年それぞれの発達段階に合った課題でも、お互いのしていることに関心が向き、どう作ったかなど会話が生まれるきっかけになったので、遊びの環境に生かせると良いと思う。
7	実践事例研修	○異年齢交流における幼児同士をつなぐための工夫

		・野菜栽培では、各学年でそれぞれ野菜を育てるのではなく、収穫した喜びを共有できるように全園児で一緒にいろいろな野菜を育ててきた。野菜に親しみやすい名前をつけたり、『はたけのポルカ』の歌詞を育てている野菜の名前に変えて歌ったりしてきたことで、野菜の成長に気が付いて言葉を交わしたり、どんな風にして食べたいかなど自分の思いや考えを相手に伝えたりすることができた。水やりのタライを 1 か所にしたことで、分担し協力し合って水やりをする姿が見られ、収穫の喜びを共有できた。 ・プール遊びの際の衣服の着脱では、同じ時間・同じ場所でできるようにすることで、年齢関係なくお互いに気が付いたことを伝え合う様子も見られたが、教員間の連絡調整が不十分な事も多々あった。
8	1 学期の振り返り	○1 学期の反省・評価 ・教師が決められることも、幼児と相談しながら、決めてきた。年少組は、活動の輪の中に入ることで、他の学年のしていることや周囲のことにも関心が広がってきた。 ・年中組は、年長児の姿を見て、年長児の意見に頷いたりしており、年長児に対する憧れの気持ちが育まれ、来年につながる姿が見られた。 ・年長組は、自分の意見を自分で考えて言えるようになってきたとともに、年下の幼児の気持ちも考えた意見も出せるようになってきた。伝える際には、まだ少し言葉が足らず伝えたいことが、上手く相手に伝わらないこともあるので、言葉を補う必要がある。
9	実践事例研修	○異年齢交流における幼児同士をつなぐための工夫 ・運動会の組体操は、全園児で発達段階を考慮しつつ、一緒に一つのプログラムに取り組めるように考えた。毎朝継続して取り組んできた朝体操からスムーズに運動会競技へつなぐことができるよう、朝体操に組体操のポーズを取り入れたり、幼児一人一人のポーズを考えたりしたことで、友達に関心をもち、互いの良さに気付いたり、皆と一緒に協力して取り組むことが楽しいと感じたり助け合う気持ちが生まれたりした。どの幼児も自信をもって、楽しみながら取り組むことができた。
10	実践事例研修	○利南幼稚園園児との交流における活動の工夫 ・利南幼稚園との交流に当たって、大人数で競技をする楽しさや同年齢の幼児との交流の経験を味わえるよう活動を考えた。互いの運動会で披露したダンスを「運動会ごっこ」として遊びに取り入れることで、普段はあまり関わっていない人、知らない曲でも、一緒になって参加し真似してみたり踊ったりすることを楽しむことができた。 ・利南幼稚園の幼児と一緒にリレーや玉入れ、バルーンなど大人数で取り組める競技をすることで、少人数では味わえない迫力や競い合いができた。 ・年少組は、年長・年中組の交流の様子を見たり参加したり、ロッカーや下駄箱に利南幼稚園の年少組を迎える準備をしたりしたことで、交流への期待が高まった。いろいろな友達と一緒に触れ合い好きな食べ物を伝え合うことで、自分の思いが相手に通じる喜びが味わえた。簡単なルールのある遊びを一緒にすることで、大人数で一緒に遊ぶ楽しさを感じたりすることができた。
11	指導主事訪問	○研修内容についての指導・助言を受け、今後の研修に生かす
12	実践事例研修	○保育室の見直しについての工夫［保育室を同室にする］ ・全学年が一緒の部屋で過ごすことで普段の生活の場をつなげ、自然な関わりが生まれるよう遊びの内容や環境を工夫した。
1	研修のまとめ	○成果、課題、今後の取組について ・異年齢が普段の生活や遊びの場面で学年クラスに関係なく関わりを深めていくことができてきているので、今後も継続して園全体でひとりひとりの幼児を育てていく。

＜職　員　一　覧＞

職　名	氏　名	職　名	氏　名
園　長	小室　昌顕	教　諭	北野　法子
教　諭	磯貝　理恵	用務員	斎藤　澄夫
教　諭	宇敷　里奈		